

科目	歴史総合	学年	第2学年	開講	通年	必修	2 単位
----	------	----	------	----	----	----	------

教科書： 山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』
副教材： 山川出版社『歴史総合ノート 近代から現代へ』

1	学習の到達目標
我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化・伝承の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。また、受験対策を授業内で織り交ぜながら知識理解につなげる。	

- 2
- 学習計画及び評価方法
- a 知識技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	第1部	第1章 結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本	アジア諸地域の帝国と独自の体制を築く江戸幕府が繁栄できた理由を考察する。	4		○	○	○
			ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	アジア諸国とヨーロッパ諸国の関係について多角的に考察し理解する。			○	○	○
		第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ経済の動向と産業革命	イギリスから始まった産業革命はヨーロッパへと波及するが、産業革命により各国にどのような変化をもたらしたのか考察する。			○	○	○
			アメリカ独立革命とフランス革命	近代民主政治の基本原則を世界に示した二つの革命は、どのような類似点と相違点があるか理解を深める。	5		○	○	○
			19世紀前半のヨーロッパ	ナショナリズムや自由主義的改革が広がる中で、どのような考えがどのような人々により主張されたのか。その背景を考察・理解する。			○	○	○
			19世紀後半のヨーロッパ	各国が国力を高めるため国民国家の形成を急ぐが、その過程に各国でそのような相違が見られるか多角的に考察し、理解する。			○	○	○
			19世紀のアメリカ大陸	18世紀に成立したアメリカ合衆国が20世紀には世界最大の国力を持った背景について考察・理解する。			○	○	○
			西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化	アジア地域のヨーロッパ諸国の進出に対し、各地の人々の対応について考察する。			○	○	○
			中国の開港と日本の開国	19世紀に東アジア諸国に対する欧米諸国の自由貿易はなぜ活発になったのか。それぞれの国の対応について多角的に考察し理解する。		前中	○	○	○
		第3章 明治維新と日本の立憲体制	明治維新と諸改革	明治新政府における「国家の在り方」と生み出される「国民」について考察し理解を深める。			○	○	○
			明治初期の対外関係	明治政府が考える諸外国との関係とそれに伴う国内改革について考察し理解を深める。			○	○	○
			自由民権運動と立憲体制	国民の政治参加の動きと立憲体制に向けた政府の動きを比較しながら考察する。	6		○	○	○
		第4章 帝国主義の展開とアジア	条約改正と日清戦争	日清戦争の背景と日本と清・朝鮮との関係を理解する。			○	○	○
			日本の産業革命と教育の普及	日本の産業革命の特色と国内や貿易への影響を理解するとともに、教育の普及についてもその意味を考える。		中間	○	○	○
			帝国主義と列強の展開	帝国主義と呼ばれた背景を考えるとともに、この時期の各国の内政についても結びつけて考え理解を深める。			○	○	○
			世界分割と列強の対立	植民地化の動きと列強の相互関係の変化について多角的に理解を深める。			○	○	○
			日露戦争とその影響	日露戦争の背景とその後の国内や周辺地域への影響について考察し理解を深めていく。	7	前期	○	○	○
	第2部	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦によって各国の社会や国際秩序にどのような変化をもたらされたのか。また総力戦と呼ばれた意味について理解を深める。			○	○	○
			国際平和と安全保障	第一次大戦後の新しい国際秩序の枠組みの内容について理解し、大戦後のヨーロッパ各国の内政についても変化を読み解き考察を加える。			○	○	○
			アジア・アフリカ地域の民族運動	第一次世界大戦による影響はアジア・アフリカ地域にどのような変化をもたらしたのか考察を加え、理解を深める。			○	○	○

第2部	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	大衆消費社会と市民生活の変容	1920年代のアメリカでの大衆消費社会はどのように始まり、日本ではどのような展開を迎えたのか。時代背景をおさえ考察する。	9		○	○	○
		社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	「大正デモクラシー」という政治や社会の民主的な「改造」を目指す動きが盛んに起こった背景と日本の政治や社会に起こした影響について考察し理解する。			○	○	○
	前期 授業評価					○	○	○
	第6章 経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌の発生と各国の対応	資本主義諸国を襲った世界恐慌に対し各国の対応と国際秩序にもたらした変化について多角的に考察し理解を深める。			○	○	○
		ファシズムの台頭	ドイツを中心にファシズムはどのように台頭し、ヨーロッパ各国はファシズムに対してどのようにして対応したのかを考察を加え、国際関係について理解を深める。			○	○	○
		日本の恐慌と満州事変	恐慌後の日本国内における激動と国際社会への影響を周辺諸国との関係に注力しながらその背景を読み解く。			○	○	○
		日中戦争と国内外の動き	日中戦争の長期化の原因と日中両国及び国際社会への影響について諸外国との関係を結びつけながら理解を深める。	10		○	○	○
		第二次世界大戦と太平洋戦争	第二次世界大戦の展開と世界への影響について国際関係に注力しながらその背景について考察を加え、理解を深める。			○	○	○
	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	新たな国際秩序と冷戦の始まり	新たな国際秩序と冷戦が始まった背景について多角的に理解する。			○	○	○
		アジア諸地域の独立	第二次大戦後、社会の安定を図れなかったアジア地域に困難を引き起こした国際的背景と国内的状況について考察し理解を深める。			○	○	○
		占領下の日本と民主化	民主化政策による日本の変化と戦後処理についてその後の影響を踏まえて考察を加え理解する。			○	○	○
		占領政策の転換と日本の独立	1940年代末に転換した日本の占領政策はどう変化した、その後の日本の独立回復にどのような影響を与えたのかを考察し多面的に理解する。	11		○	○	○
後期	第8章 冷戦と世界経済	集団防衛体制と核開発	アメリカとソ連の集団防衛体制の構築はどのような展開を見せ、国際社会にどのような影響を及ぼしたのか、周辺諸国との関りを捉え理解を深める。			○	○	○
		米ソ両大国と平和共存	1950年代半ばから見られる米ソの平和共存に向けた動きの展開についてその背景をおさえ理解を深める。			○	○	○
		西ヨーロッパの経済復興	戦後の西ヨーロッパの経済復興や統合はどのような展開をみせたのか。アメリカからの自立を含め背景を理解する。			○	○	○
		第三世界の連携と試練	冷戦時代、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国は「第三世界」として東西両陣営にどのように対応したのだろうか。それぞれの動きをおさえ、理解を深める。			○	○	○
		55年体制の成立	55年体制が成立し長期保守政権が成立した日本では、この政治体制下で政治・外交はどのような展開を迎えたのかを考察し、理解を深める。	12	中間	○	○	○
		日本の高度経済成長	日本の高度経済成長が成し遂げられた背景とそれに伴う人々の生活や社会はどのような変化をもたらしたのかを考察し理解を深める。			○	○	○
		核戦争の恐怖から軍縮へ	キューバ危機について理解を深めるとともにその後の緊張緩和と軍縮はどのように進められたのか。考察を加え多面的に理解する。			○	○	○
		冷戦構造のゆらぎ	1960年代の冷戦構造の変化と米ソの対応について周辺諸国とのかかわりを捉えながら理解を深める。	1		○	○	○
		世界経済の転換	アメリカ中心の世界経済から経済成長を最優先する価値観が見直されるようになった背景とその後の影響について考察を加える。			○	○	○
		アジア諸地域の経済発展と市場開放	1970年代以降、東アジア・東南アジアの急速に進む工業化の背景と国内的要因・国際的要因について考察する。また日本が高い高度経済成長率を維持できた理由もおさえる。			○	○	○
	第9章 グローバル化する世界	冷戦の終結と国際情勢	冷戦の終結により国際情勢はどのように変化したのか。また同時期におこる湾岸戦争への国際社会の対応について考察し理解する。			○	○	○
		ソ連の崩壊と経済のグローバル化	ソ連崩壊やユーゴスラヴィア解体の背景について理解を深め、冷戦後の世界における経済のグローバル化の進展について考察を加える。	2		○	○	○
		開発途上国の民主化と独裁政権の動揺	1990年代前後でラテンアメリカ・アジアなど世界各地で民主化運動の高まりと軍事政権・独裁政権の崩壊した背景について多角的に考察しその理由をおさえる。			○	○	○
		地域紛争の激化	グローバル化により「世界の一体化」が進む現代において起こる各地の紛争・対立の背景について考察し理解を深める。			○	○	○
		国際社会の中の日本	めまぐるしく変化する国際社会の中で、日本と世界各国との関係について考察し理解を深める。	3	期末	○	○	○
	第10章 現代の課題	現代世界の諸課題	現在直面している様々な諸問題に私たちはどのように立ち向かうべきか多角的・多面的に考察する。			○	○	○
		現代日本の諸課題	現在直面している様々な諸問題に私たちはどのように立ち向かうべきか多角的・多面的に考察する。			○	○	○
後期 授業評価					○	○	○	

3 評価の観点

各観点100点満点で算出する。

- 知識・技能 : 査素点 70%+課題等 30%
- 思考・判断・表現 : 査素点 60%+課題等 40%
- 主体的に学習に取り組む態度 : 平素の授業態度、提出物、発表等…100%